第27期考古学セミナー（2025年度）

―日向洞窟遺跡西地区と縄文時代草創期の置賜―

第２回講座

講義②

日向洞窟遺跡の槍先形尖頭器を技術基盤とする石器群と東日本における位置づけ

蔵王町教育委員会

鈴木　雅　氏

令和７年９月２８日（日）

会場　山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館研修室

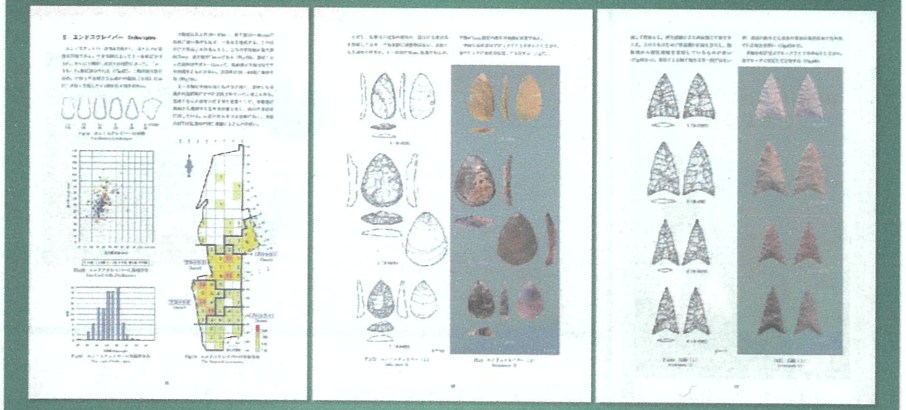
第27期考古学セミナー　第２回　2024.9.28 Sun.

日向洞窟遺跡西地区の石器群

槍先形尖頭器製作を
技術基盤とする石器群と
東日本における位置づけ

鈴木 雅（宮城県 蔵王町教育委員会）

日向洞窟遺跡西地区石器群の研究@東北学院大学



2004年時点で抽出されていた石器1,678点を対象に観察・分類・計測

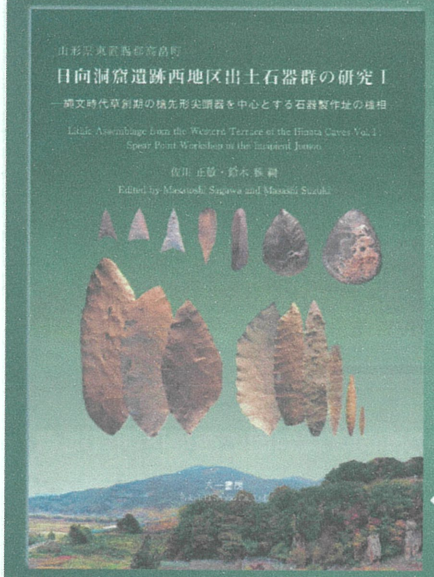
➡117点を資料化（実測図・写真）

石器群の概要をコンパクトに報告
分布図・分類図・法量（グラフ）

研究報告書（佐川・鈴木編，2006年刊行）

日向洞窟遺跡西地区出土石器群の研究Ⅰ
－縄文時代草創期の槍先型尖頭器を中心とする石器製作址の様相－

日向洞窟遺跡西地区石器群の研究@東北学院大学



2004年6月～2006年1月
山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館にて

日向洞窟遺跡西地区出土石器群の資料調査
（石器の観察、分類、計測、実測、写真撮影）

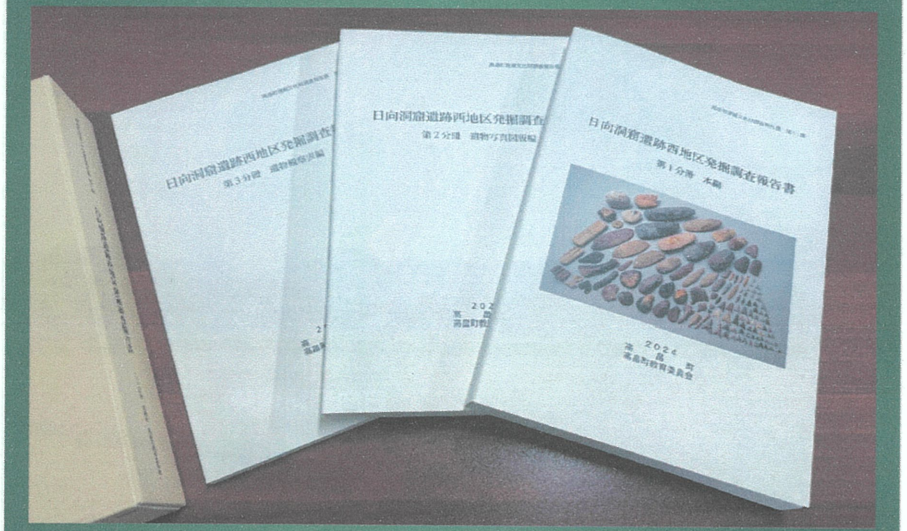
修士論文（2004年度提出）

東日本における縄文時代草創期石器群の技術論的研究
-後期旧石器的石器群の衰退と縄文的石器群の成立-

⬅研究報告書（佐川・鈴木編，2006年刊行）

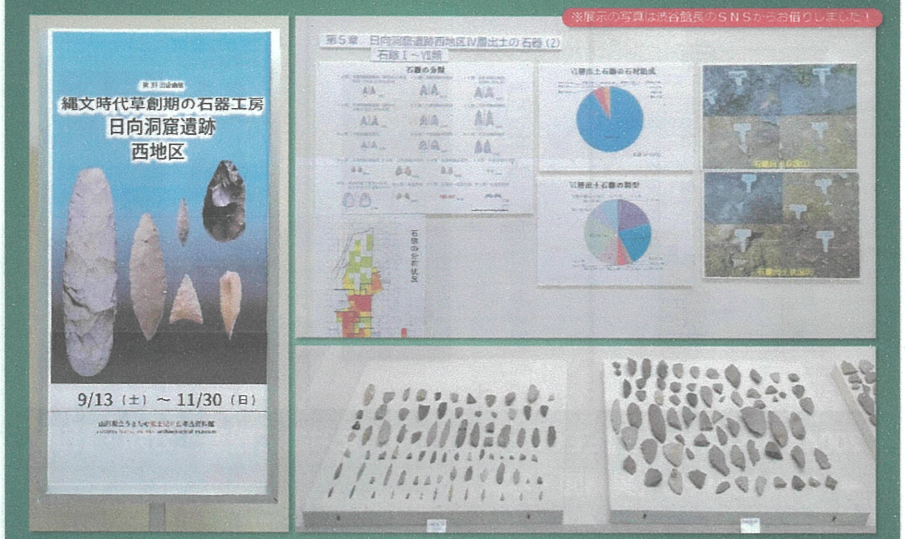
日向洞窟遺跡西地区出土石器群の研究Ⅰ
－縄文時代草創期の槍先型尖頭器を中心とする石器製作址の様相－

日向洞窟遺跡西地区の本報告@高畠町教育委員会



全3分冊計約850ページに及ぶ大部の発掘調査報告書（正式報告）を刊行

日向洞窟遺跡西地区展@うきたむ風土記の丘考古資料館



少数の完成品と大量の未成品 ➡ 調査地点周辺の「場の機能」を物語る

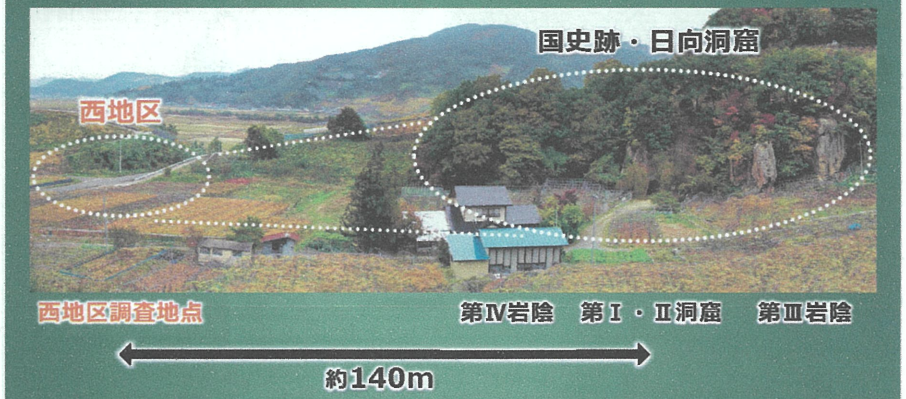
日向洞窟と西地区の位置

国史跡「日向洞窟」西方の南向き緩斜面に「西地区」の調査地点

日向洞窟遺跡の立地環境

大湿地帯「大谷地」に向かって半島状に張り出す長峯山の基部・南麓部

日向洞窟と西地区の位置



第Ⅰ洞窟の西側約140m、長峯山鞍部の南向き緩斜面に西地区調査地点

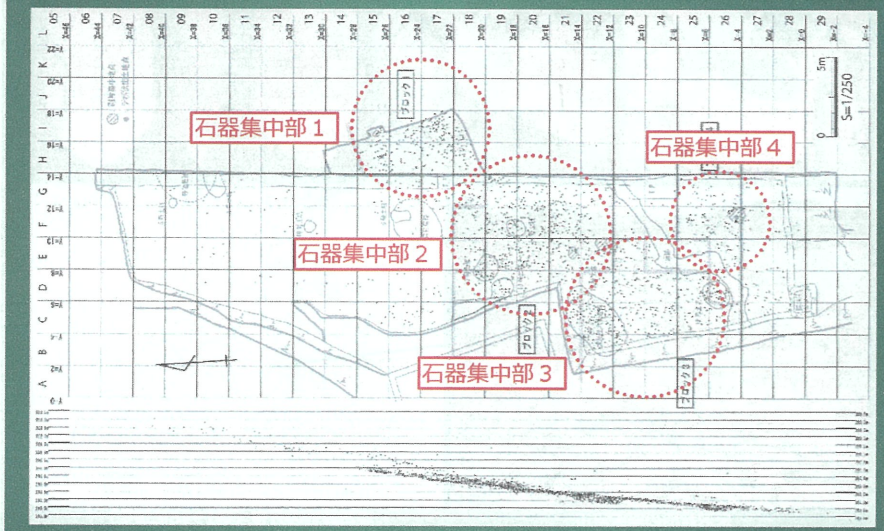
「回帰的半定住的な生活にあって拠点的なベースキャンプ」
（高畠町教育委員会2025）

日向洞窟遺跡西地区の石器出土状況

南向き緩斜面の裾部に帯状に連なる石器集中部 ➡ 石器工房：アトリエ

日向洞窟遺跡西地区の出土遺物

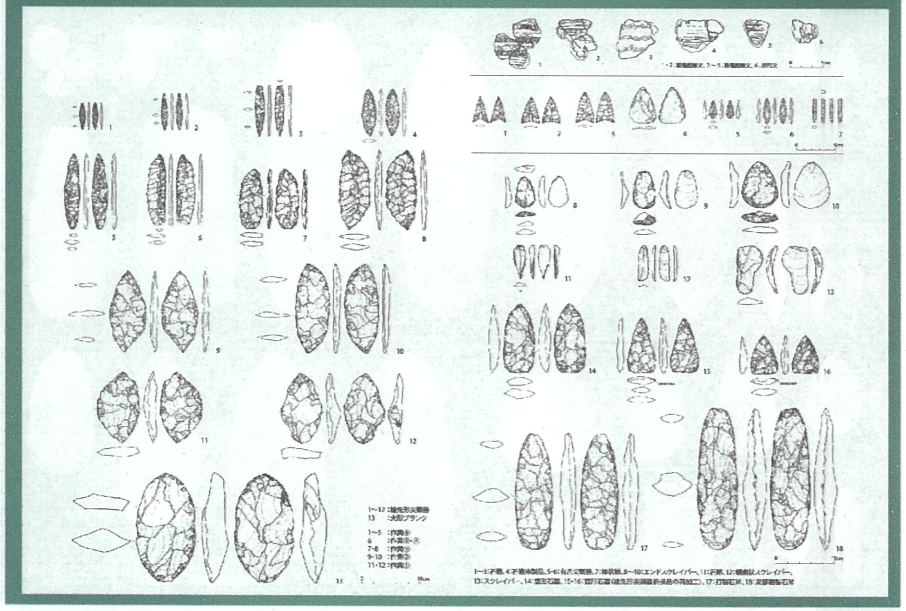
日向洞窟遺跡西地区の石器出土状況



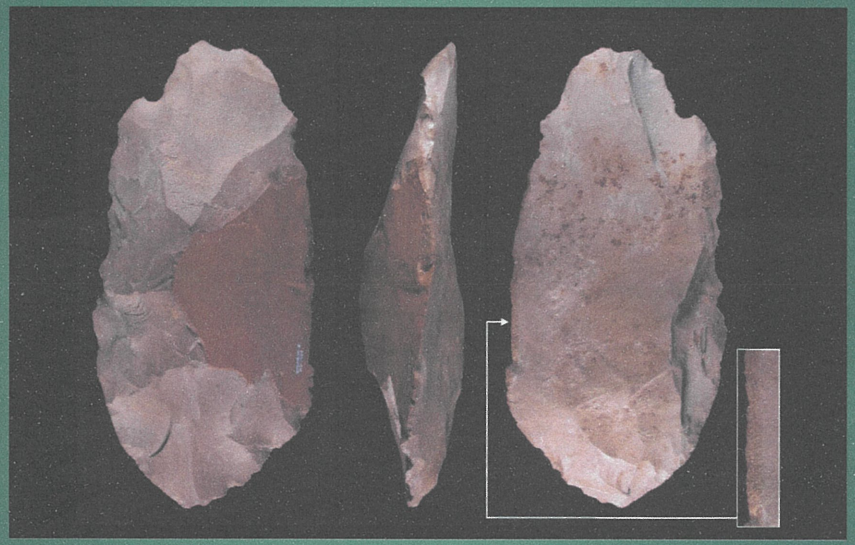
南向き緩斜面の裾部に帯状に連なる石器集中部 ➡ 石器工房：アトリエ

日向洞窟遺跡西地区の出土遺物

日向洞窟遺跡西地区の出土遺物

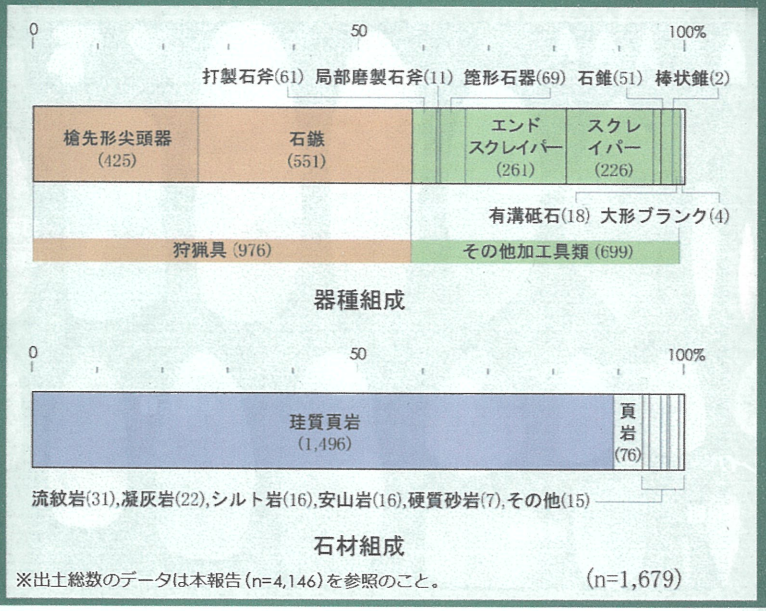


日向洞窟遺跡西地区の珪質頁岩はどこから？



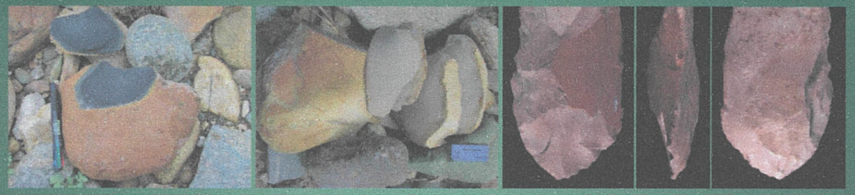
石器に残る原石表皮は水による風化を示す ➡ 河床礫の採取を示唆

日向洞窟遺跡西地区の出土遺物

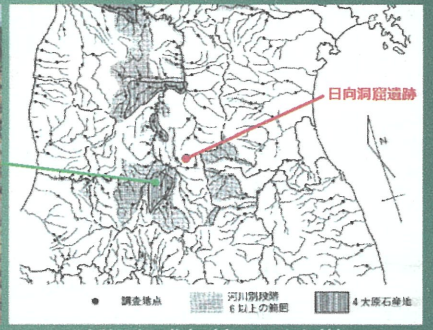


※出土総数のデータは本報告（n=4,146）を参照のこと。 (n=1,679)

日向洞窟遺跡西地区の珪質頁岩はどこから？



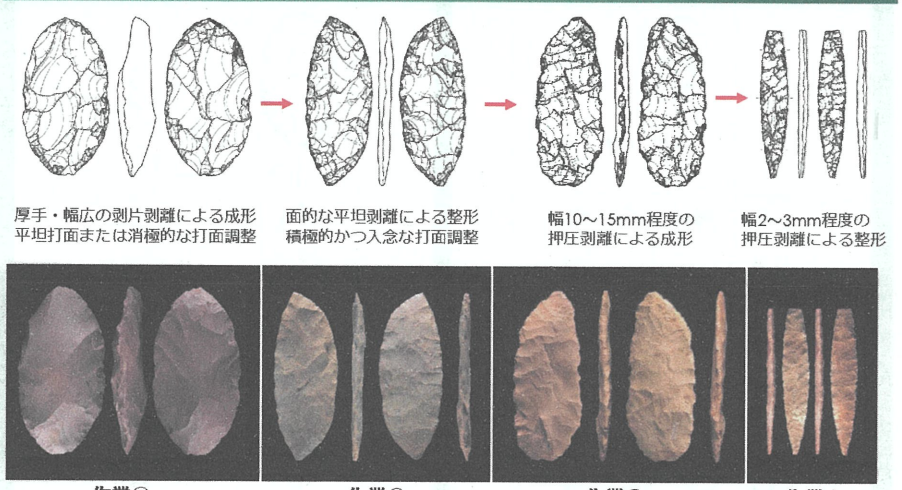
米沢盆地の礫床河川



珪質頁岩の分布（桑1998に加筆）

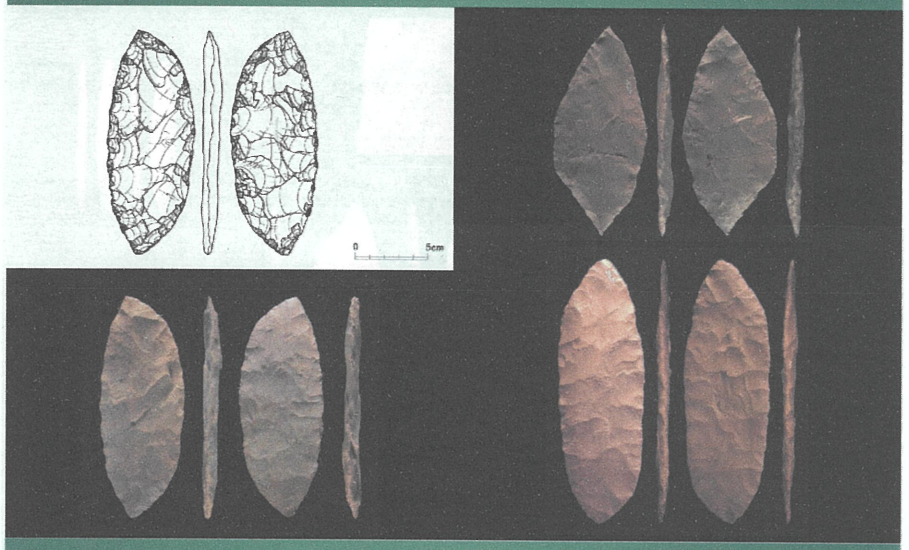
米沢盆地西側の玉庭丘陵に珪質頁岩産地 ➡ 約10km前後を運搬

日向洞窟遺跡西地区の槍先形尖頭器の製作工程



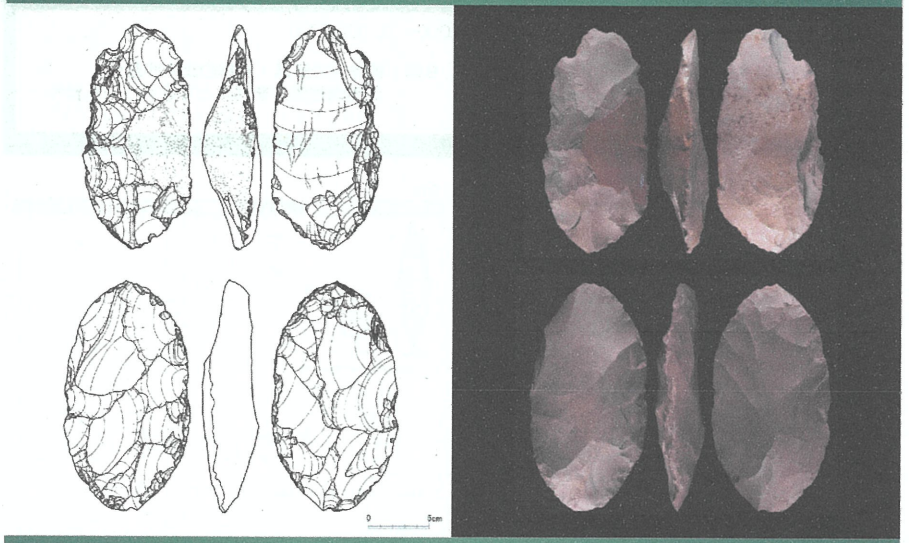
大量に残された未成品から４つの作業内容と製作工程が復元された

日向洞窟遺跡西地区の槍先形尖頭器の製作工程



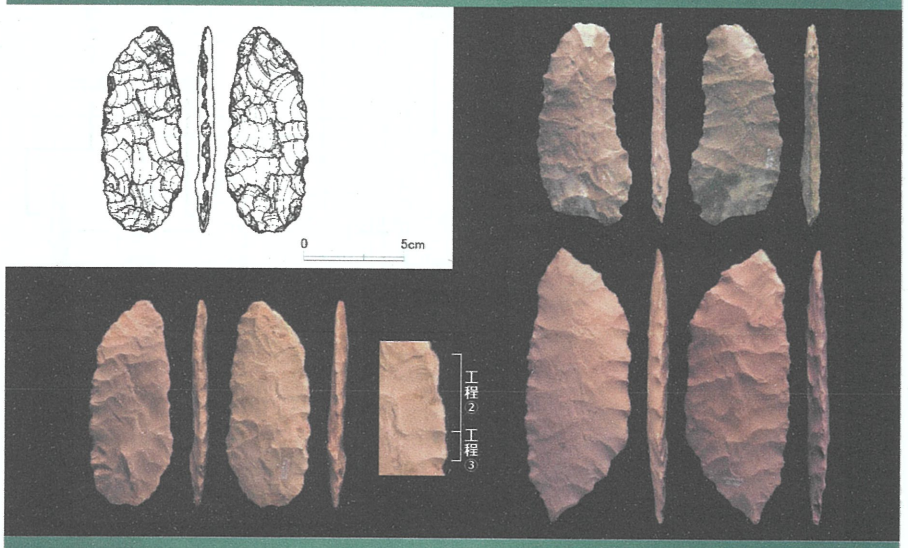
作業②　面的な平坦剥離により整形 ➡ 大・中型 木葉形尖頭器の製品

日向洞窟遺跡西地区の槍先形尖頭器の製作工程



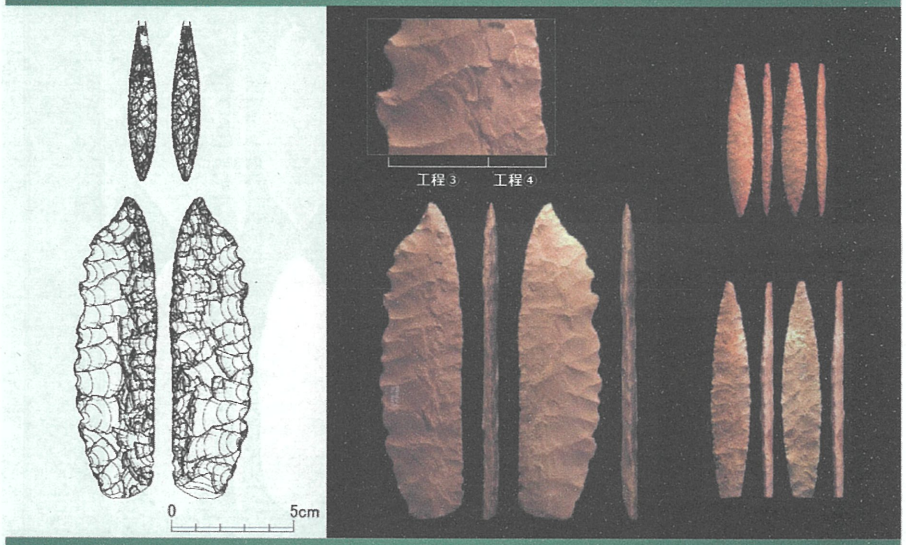
作業①　大型の両面体（ブランク）からの厚手・幅広の剥片剥離

日向洞窟遺跡西地区の槍先形尖頭器の製作工程



作業③　幅10～15mmの規則的な押圧剥離による成形

日向洞窟遺跡西地区の槍先形尖頭器の製作工程



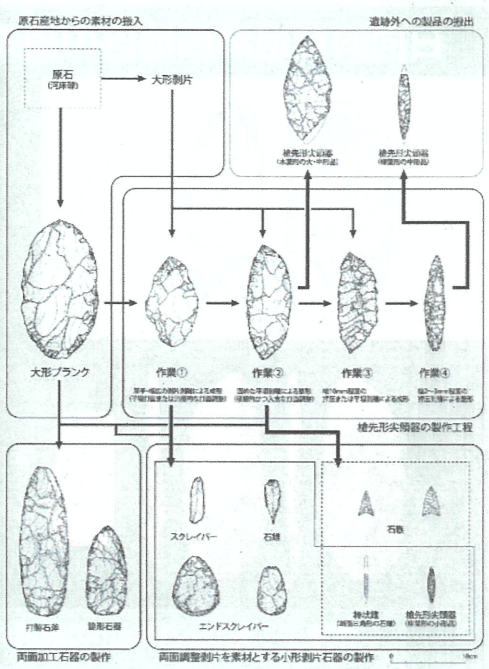
作業④　幅2～3mmの押圧剥離による整形 ➡ 中・小型 柳葉形尖頭器の製品

日向洞窟遺跡西地区の槍先形尖頭器製作を技術基盤とする石器群

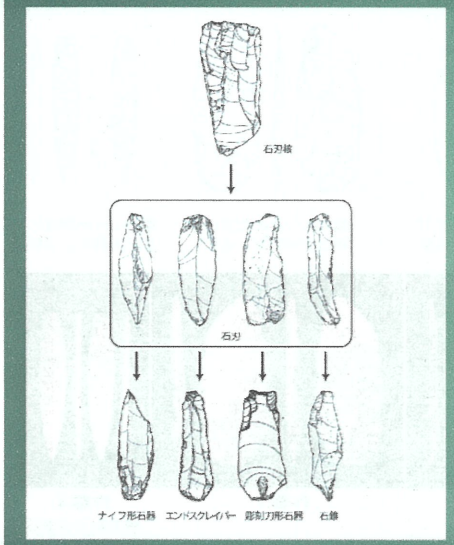
原料コストの高い
両面調整技術による
槍先形尖頭器製作

両面調整剥片を
利用した石鏃・
小形剥片石器製作

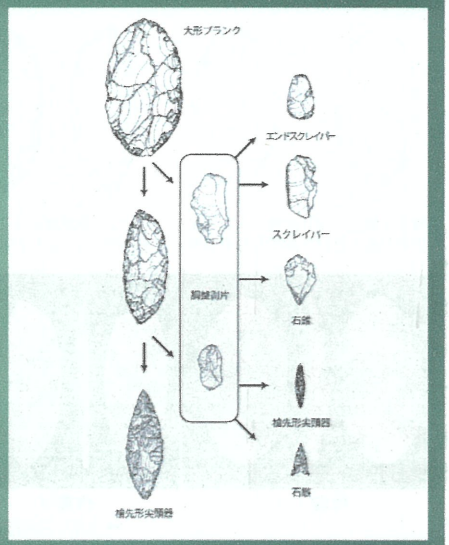
槍先形尖頭器の製作工程が
小型剥片石器の素材生産を兼ねる
効率的な石器製作システム



後期旧石器時代と縄文時代草創期中葉における石器製作の技術基盤



石刃石器群（後期旧石器時代）



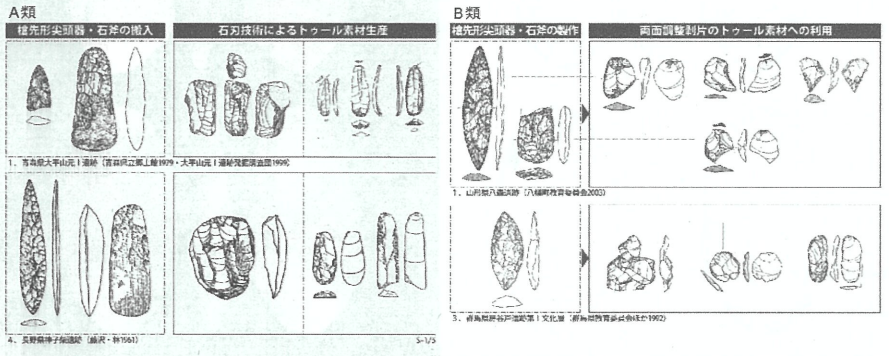
槍先形尖頭器石器群（縄文時代草創期）

縄文時代草創期の東日本における石器製作技術基盤

段階Ⅰ　神子柴石器群（無文土器段階）〔約16,000～15,000年前〕

A類：槍先形尖頭器・石斧の完成品の保持
石刃を素材とするトゥール製作
（大平山元Ⅰ・長者久保・神子柴）

B類：槍先形尖頭器・石斧の集中的製作
両面調整剥片を素材とするトゥール製作
（八森・房谷戸Ⅰ・八風山Ⅰ・Ⅵ・下茂内Ⅰ・Ⅱ）

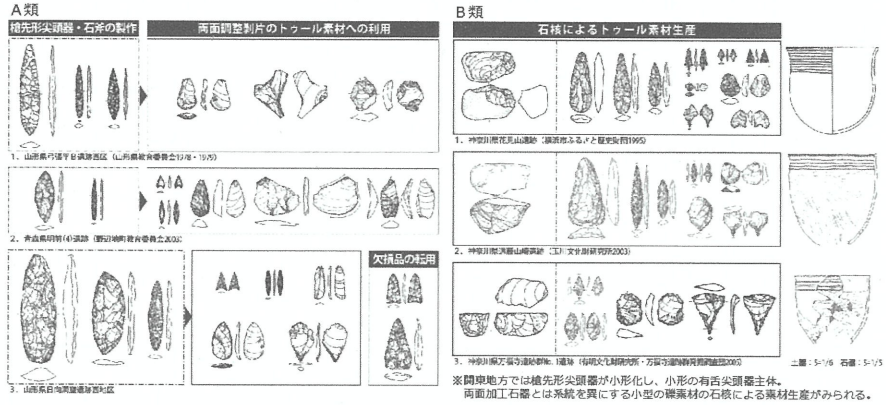


縄文時代草創期の東日本における石器製作技術基盤

段階Ⅱ　槍先形尖頭器石器群（隆起線文土器段階）〔約15,000年前～13,000年前〕

A類：槍先形尖頭器・石斧の製作と、両面調整剥片を素材とするトゥール製作
（明前４・弓張平Ｂ・日向西・中林・星光山荘Ｂ・神取）

B類：槍先形尖頭器は小型化、有舌尖頭器主体 礫素材の石核によるトゥール素材生産
（花見山・遠藤山崎・万福寺No.1・白井北中道・小島田八日市）



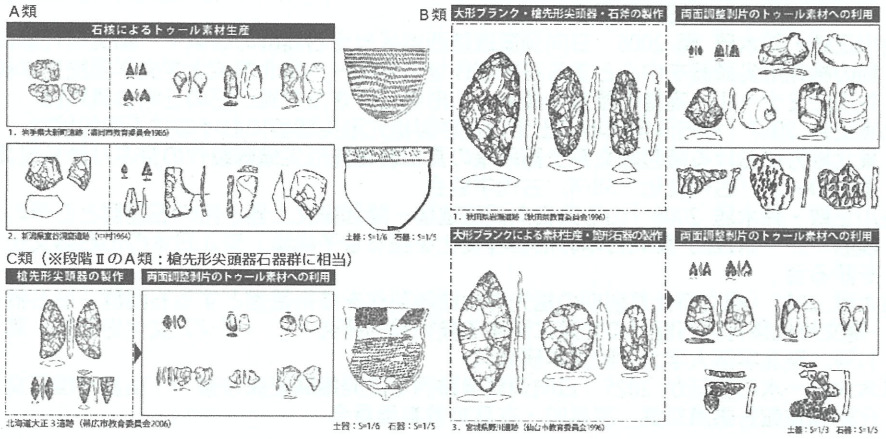
※関東地方では槍先形尖頭器が小形化し、小形の有舌尖頭器主体。
両面加工石器とは系統を異にする小型の礫素材の石核による素材生産がみられる。

縄文時代草創期の東日本における石器製作技術基盤

段階Ⅲ　縄文的石器群（爪形文・多縄文土器段階）〔約13,000年前～11,000年前〕

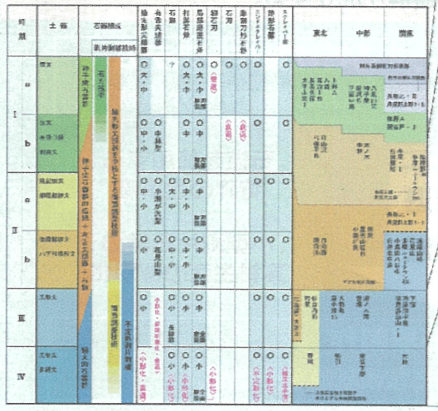
A類：槍先形尖頭器の衰退と、多打面石核によるトゥール素材生産
（大新町・室谷下層・深見諏訪山・櫛引・宮林）

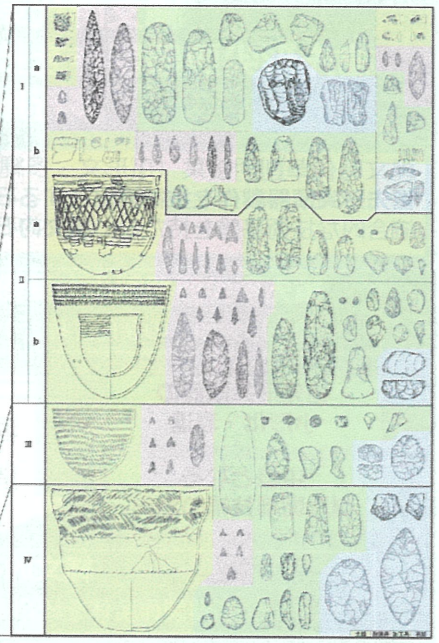
B類：大型両面加工石器の運用による両面調整剥片を素材とするトゥール製作
（岩瀬・野川・仙台内前）



縄文時代草創期の東日本における石器製作技術基盤の変遷

槍先形尖頭器製作を技術基盤とする石器群は神子柴石器群から縄文的石器群への移行期に卓越





縄文時代草創期中葉の槍先形尖頭器製作を技術基盤とする石器群の移行期的意義

日向洞窟遺跡西地区の石器群

- 縄文時代草創期中葉の槍先形尖頭器を中心とする石器製作址である。
- 大量の未製品に対して完成品と認め得る製品はほとんど残されず、多量の製品が地区外の使用の場へと搬出されたことが窺われる。
- 素材生産のみを行なう石核はなく、石鏃やエンドスクレイパーなどは、槍先形尖頭器の製作工程で生じる調整剥片を利用して製作された。

槍先形尖頭器の製作工程の中に、その他の小型剥片石器製作を効率的に組み込んだ石器製作システム

日向洞窟遺跡西地区石器群の検討と、いくつかの先行研究も踏まえれば、東日本の縄文時代草創期中葉（主に隆起線文土器段階）の石器群は、**槍先形尖頭器製作を技術基盤とする石器群**として理解される。

縄文時代草創期中葉の槍先形尖頭器製作を技術基盤とする石器群の移行期的意義

縄文時代草創期後葉（爪形文・多縄文系土器段階）になると、**槍先形尖頭器製作を技術基盤とする石器群**は急速に衰退・消滅し、統合的な技術基盤を持たない**縄文的石器群**が成立する。

槍先形尖頭器製作を基盤とする石器製作システム
＜槍先形尖頭器の製作工程と小型剥片石器の素材生産が連動＞

- 槍先形尖頭器の小形化・衰退
- 中核となる剥片剥離技術の消失
- 石鏃を使用する狩猟の比率増
- 小型剥片石器の素材生産の個別化

↓ 衰退 消滅

縄文的石器製作
＜石器製作全体を統合する技術基盤を持たない＞

【主要関連文献】

井田秀和 1990「山形県東置賜郡高畠町日向洞窟遺跡・西地区」『日本考古学年報』41，日本考古学協会

鈴木雅・佐川正敏・大場正善 2005「山形県高畠町日向洞窟遺跡西地区出土縄文時代草創期石器群の再検討（１）」『日本旧石器学会 第3回講演・研究発表・シンポジウム予稿集』日本旧石器学会

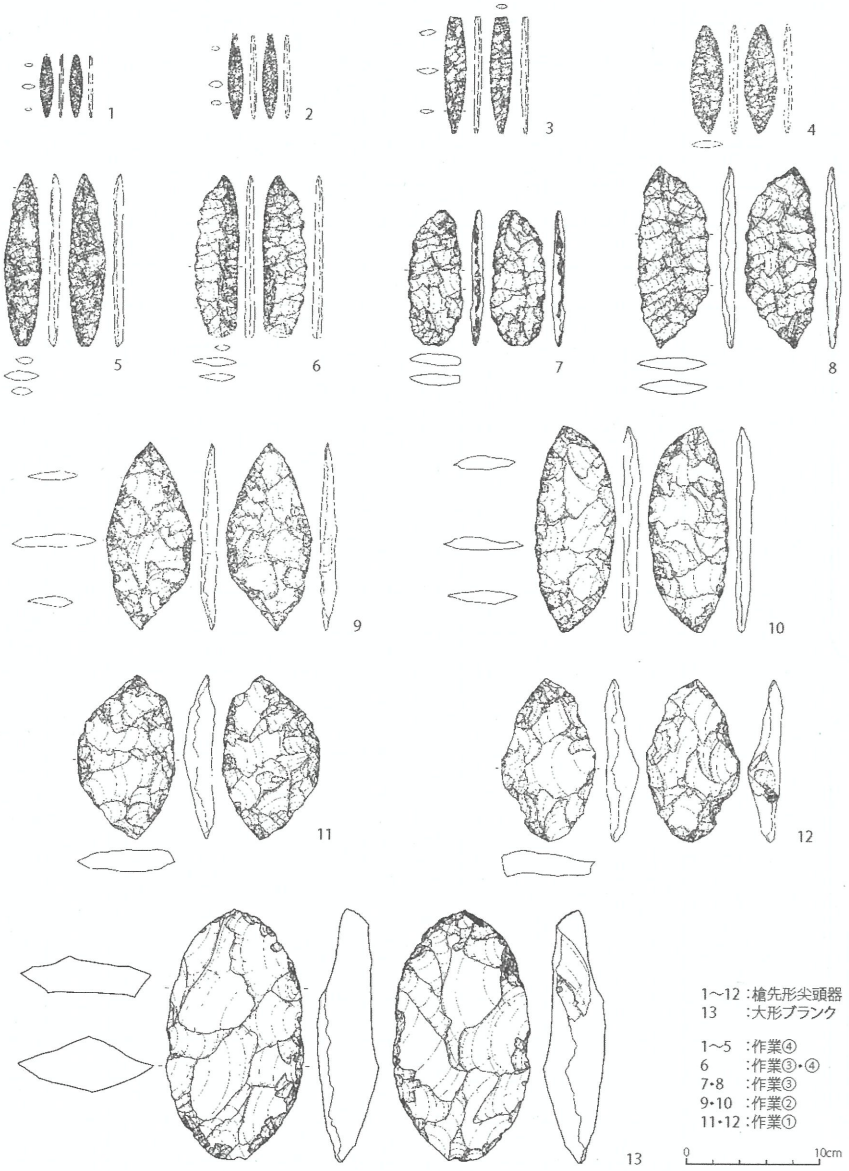
佐川正敏・鈴木雅 編 2006『日向洞窟遺跡西地区出土石器群の研究Ⅰ－縄文時代草創期の槍先形尖頭器を中心とする石器製作址の様相－』東北学院大学文学部歴史学科佐川ゼミナール・高畠町教育委員会・山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

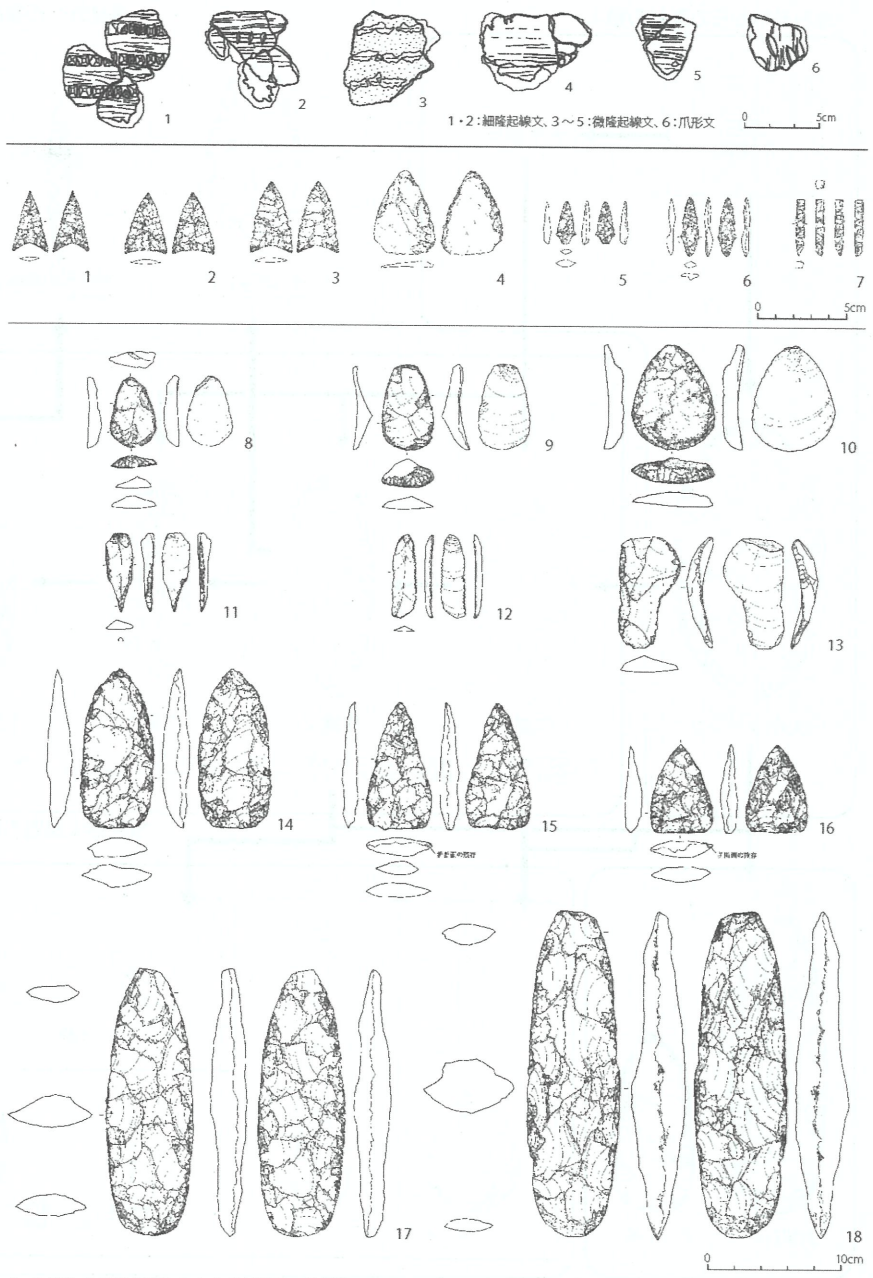
大場正善 2007「日向洞窟西地区出土の頁岩製槍先形尖頭器における技術学的検討－東北地方における隆起線文系土器段階の頁岩製槍先形尖頭器製作の身ぶりから見えるもの－」『古代文化』58-4，古代学協会

佐川正敏・鈴木雅 2008「山形県日向洞窟遺跡－隆起線文土器段階の石器群と石斧の検討－」『第22回 東北日本の旧石器文化を語る会予稿集』東北日本の旧石器文化を語る会

鈴木雅 2011「縄文時代草創期の槍先形尖頭器製作を技術基盤とする石器群－旧石器-縄文時代移行期石器群の変遷に関する技術論的研究－」『アジア文化史研究』第11号，東北学院大学大学院文学研究科

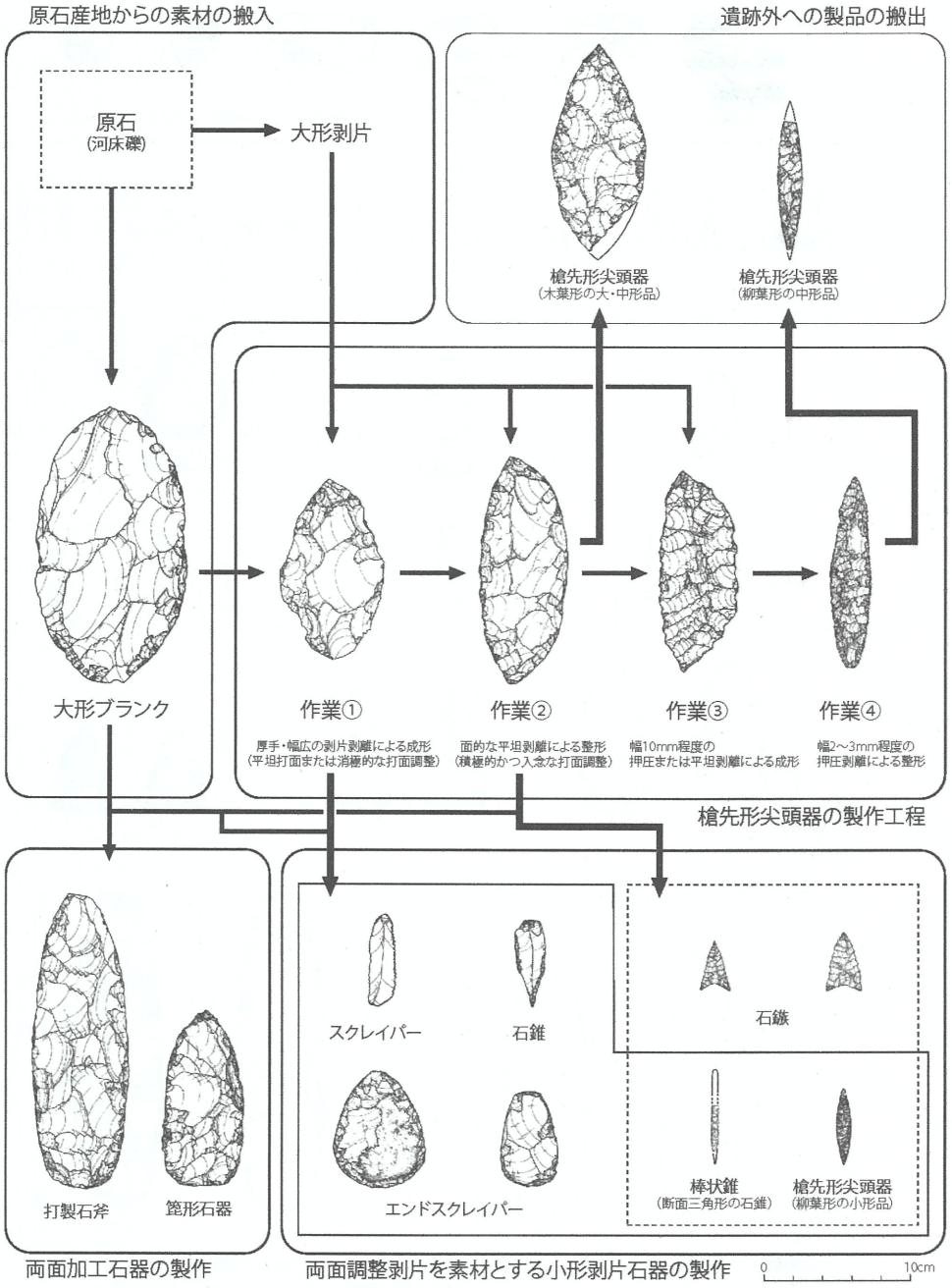
鈴木大輔・水口哲ほか 2025『日向洞窟遺跡西地区発掘調査報告書』「高畠町埋蔵文化財調査報告書第11集」高畠町・高畠町教育委員会



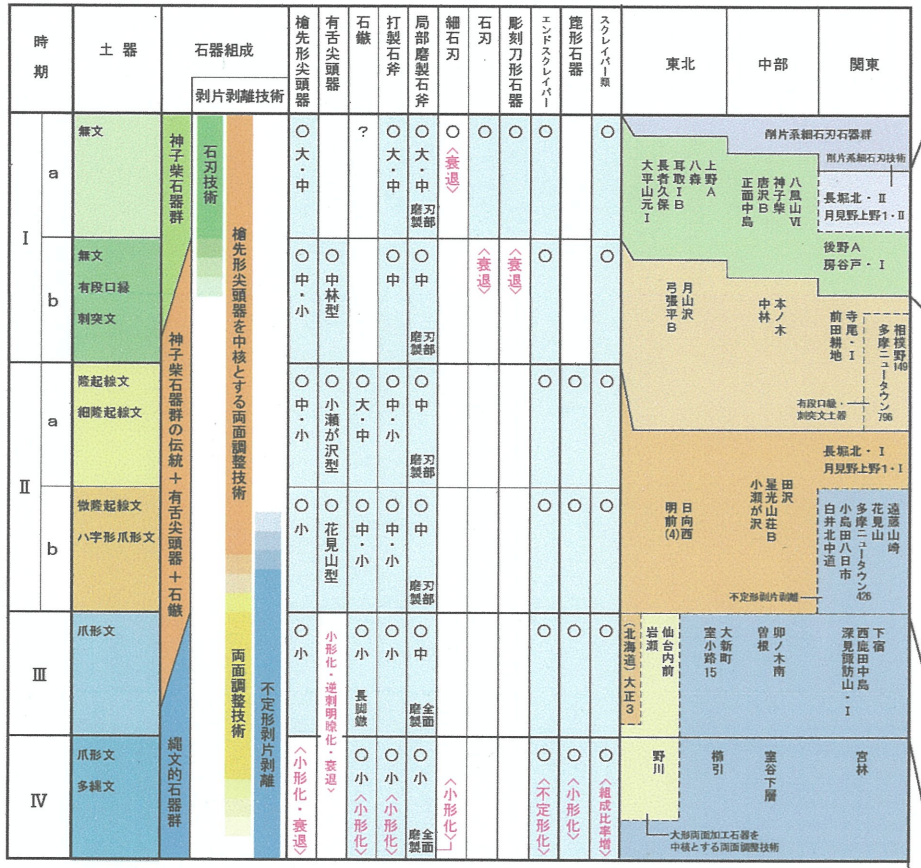
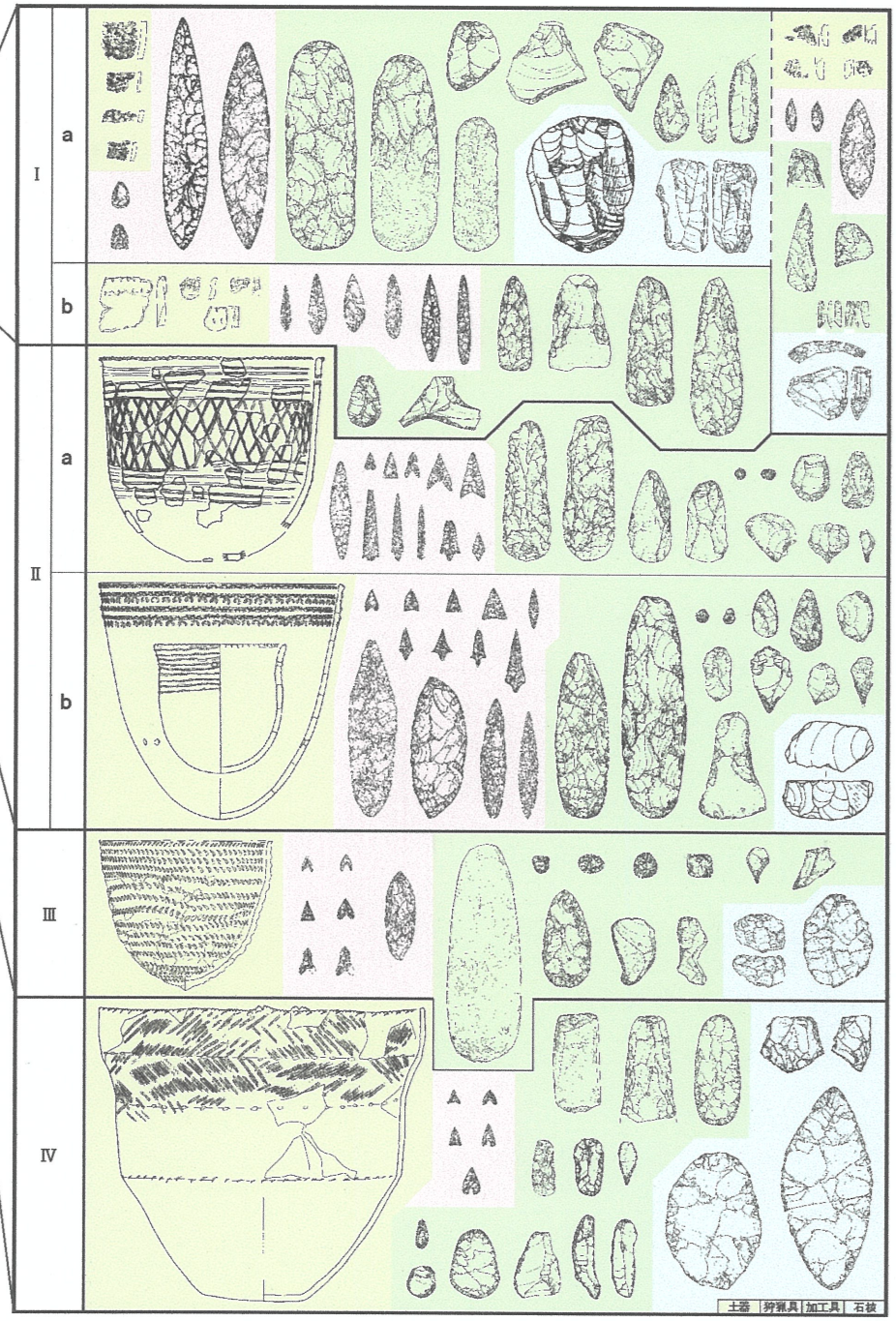


1～3：石鏃、4：石鏃未製品、5・6：有舌尖頭器、7：棒状錐、8～10：エンドスクレイパー、11：石錐、12：鋸歯状スクレイパー、13：スクレイパー、14：箆形石器、15・16：箆形石器（槍先形尖頭器折損品の再加工）、17：打製石斧、18：局部磨製石斧

日向洞窟遺跡西地区の主要な出土遺物



日向洞窟遺跡西地区の槍先形尖頭器製作を技術基盤とする石器群



東日本における縄文時代草創期土器・石器群の変遷概念と編年案